

レーザー干渉計型重力波検出器

TAMA300の開発 IX

国立天文台^A, 東大理^A, 東大宇宙線研^B, 東大新領域^C,
東大地震研^D, 宮城教育大^E, 電通大^F, 高工研^G,
MPQ^H, 計量研^I, TAMA Collaboration^J

新井宏二, 安東正樹^A, 高橋竜太郎, Gerhard Heinzel, 辰巳大輔,
川村静児, 沼田健司^A, 依田達夫^A, 高森昭光^A, 三尾典克^C,
神田展行^E, 森脇成典^C, 武者満^F, 三代木伸二^B, 長野重夫^H,
谷口信介^J, 枝久保邦治^J, 寺田聰一^I, 関谷淳^J, 河邊徑太^A,
新谷昌人^D, 奥富聰^B, 山元一広^A, 大橋正健^B, 山崎利孝,
福嶋美津広, 大塚茂巳^A, 植田憲一^F, 藤本眞克, 坪野公夫^A,
黒田和明^B, 他TAMA Collaboration

Introduction

●干渉計型重力波検出器TAMA300

基線長300mのFabry-Perot Michelson干渉計

国立天文台三鷹キャンパス

重力波検出器として動作中 (1999/6~)

●世界最高感度達成 (2000/8)

$$1.5 \times 10^{-18} \text{ m}/\sqrt{\text{Hz}} @ 600 \sim 1.4 \text{ kHz} \rightarrow h = 5 \times 10^{-21} / \sqrt{\text{Hz}}$$

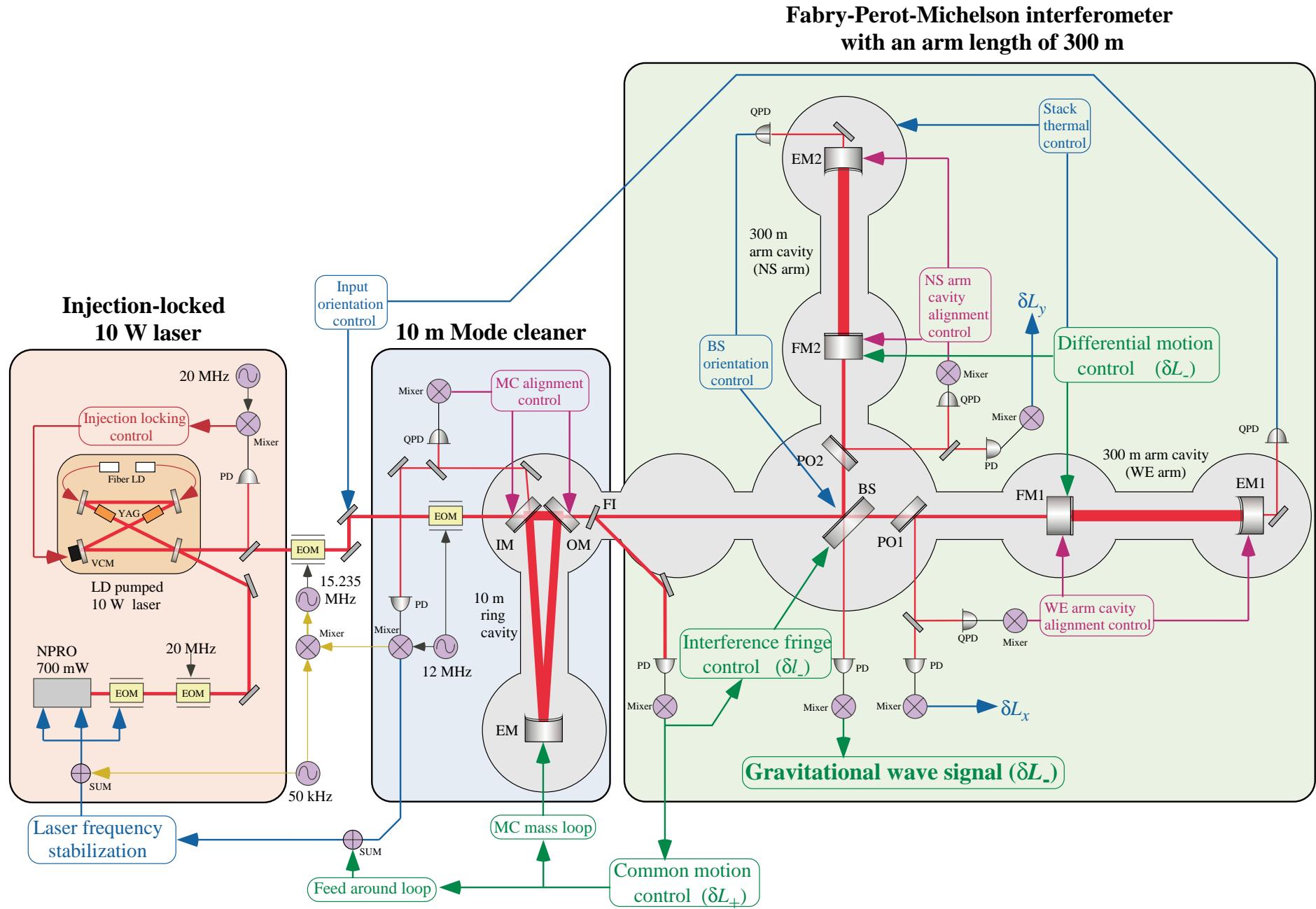
●Data Taking 4 (2000/8/21~9/4)

のべ167時間のデータを取得

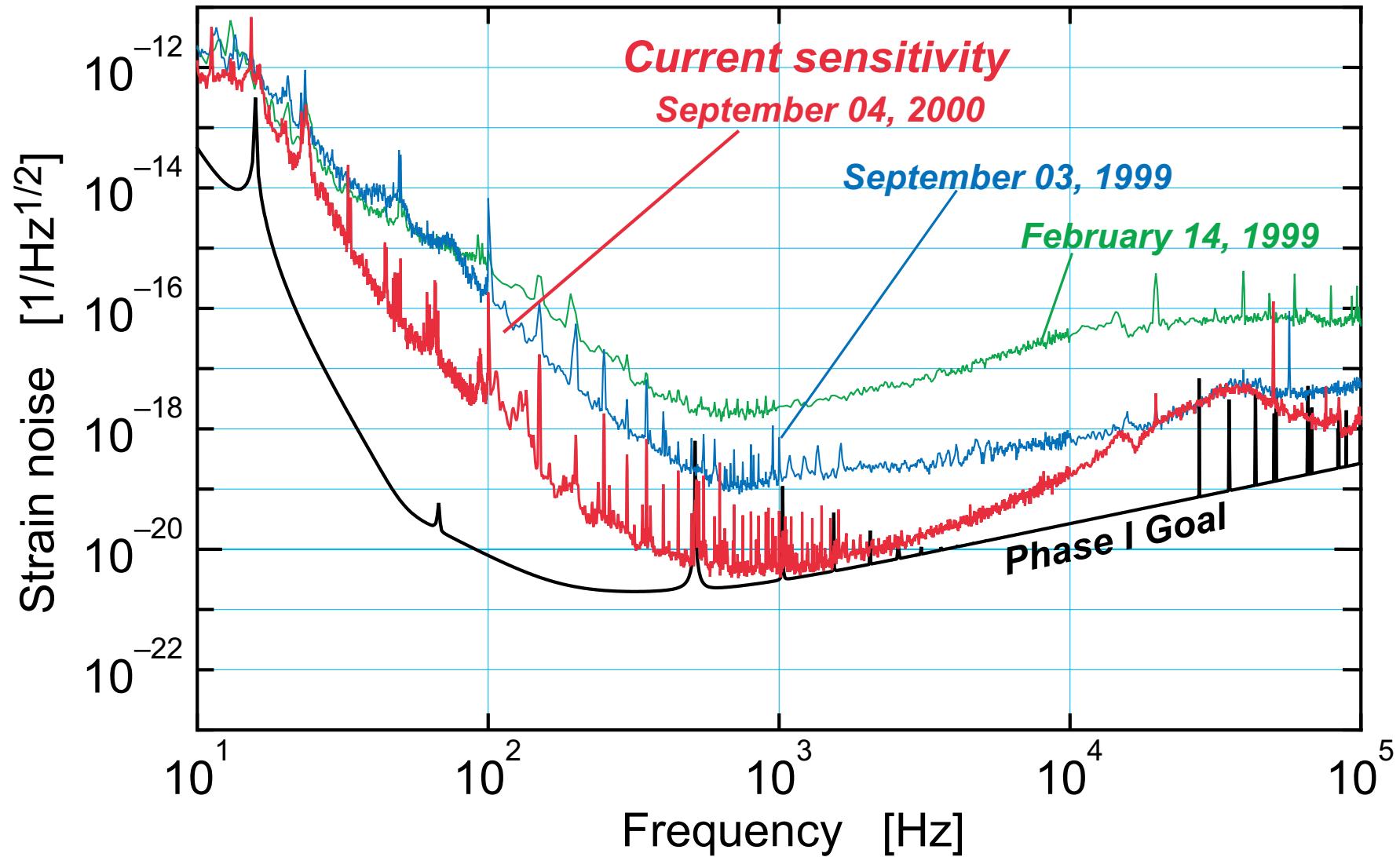
2週間の観測

終日運転も行った

Control Schemes



Sensitivity

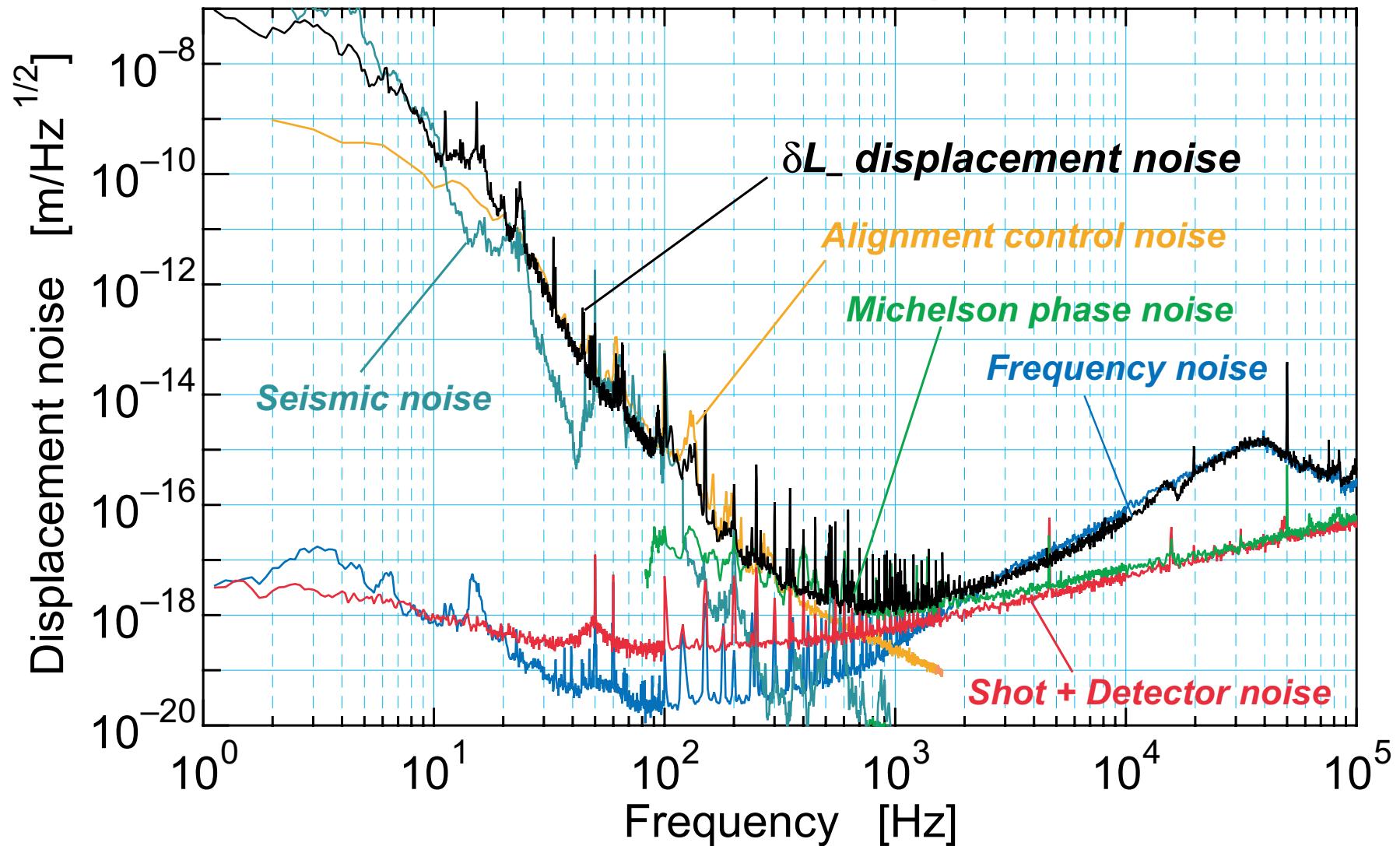


$$h = 5 \times 10^{-21} / \sqrt{\text{Hz}} @ 600 \sim 1.4 \text{kHz}$$

c.f. $h = 7.5 \times 10^{-21} / \sqrt{\text{Hz}}$ Caltech40m (1994/10)

Noise Sources

*Displacement noise level of TAMA300
(September 04, 2000)*



アライメント制御による雑音 / マイケルソン部の雑音

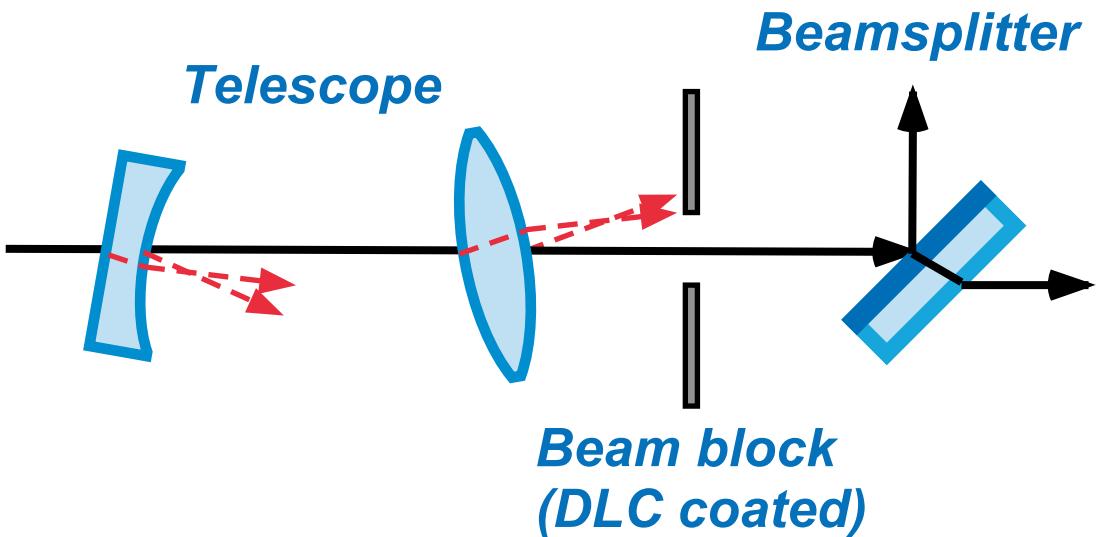
Noise Reduction

光検出器 / 検出系の改良

Detector noiseの改善

Mode Matching Telescope
からの散乱光の除去

Michelson phase noiseと
detector noiseの差の縮小



Data Taking 4

観測期間: 2週間 8/21夜 – 9/4朝 (9/1調整日)

来るべき長期運転への1step

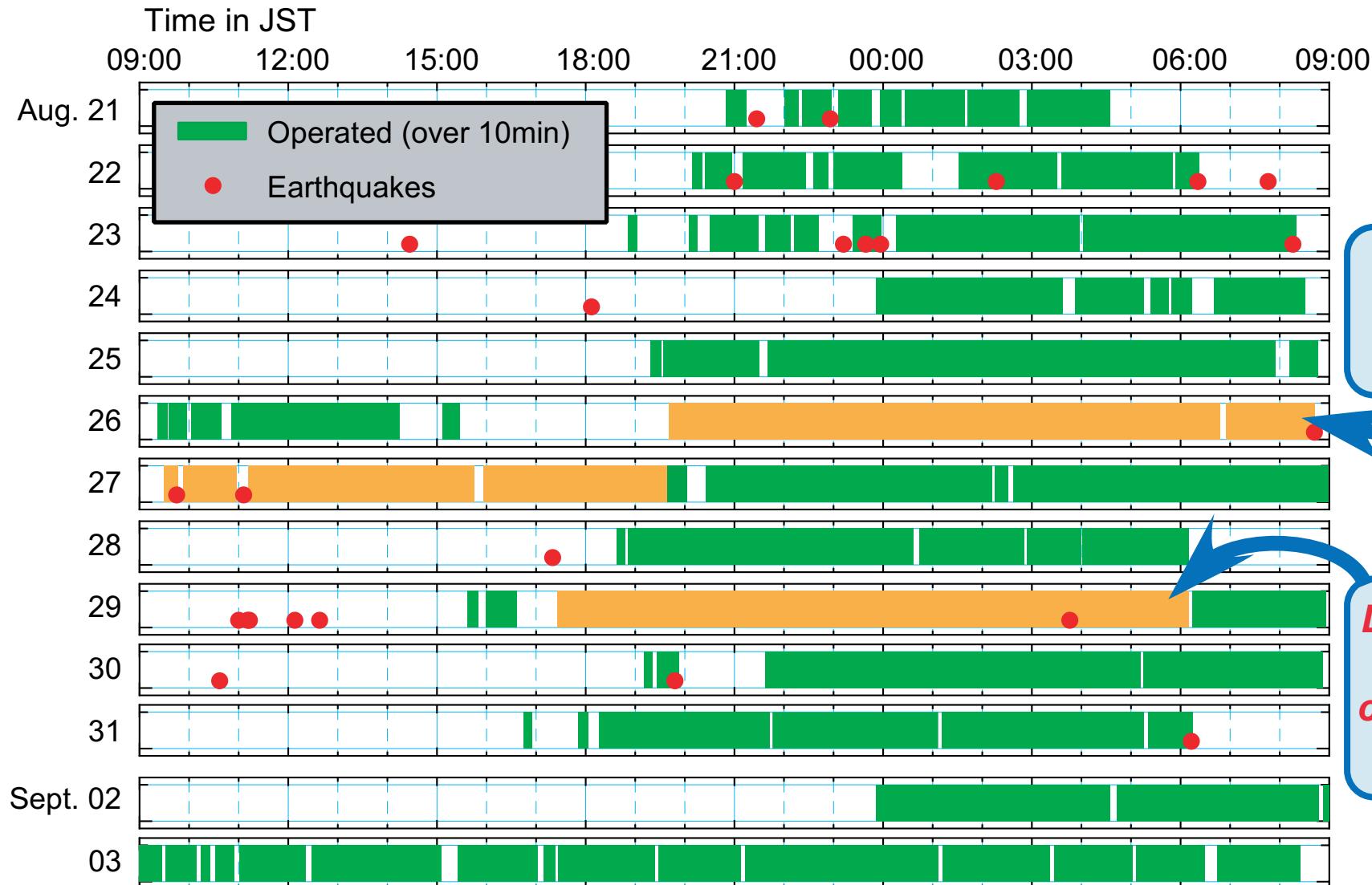
自動化への布石

腕のLength制御ロック / Alignment制御 の自動化

各種ドリフト補償機構

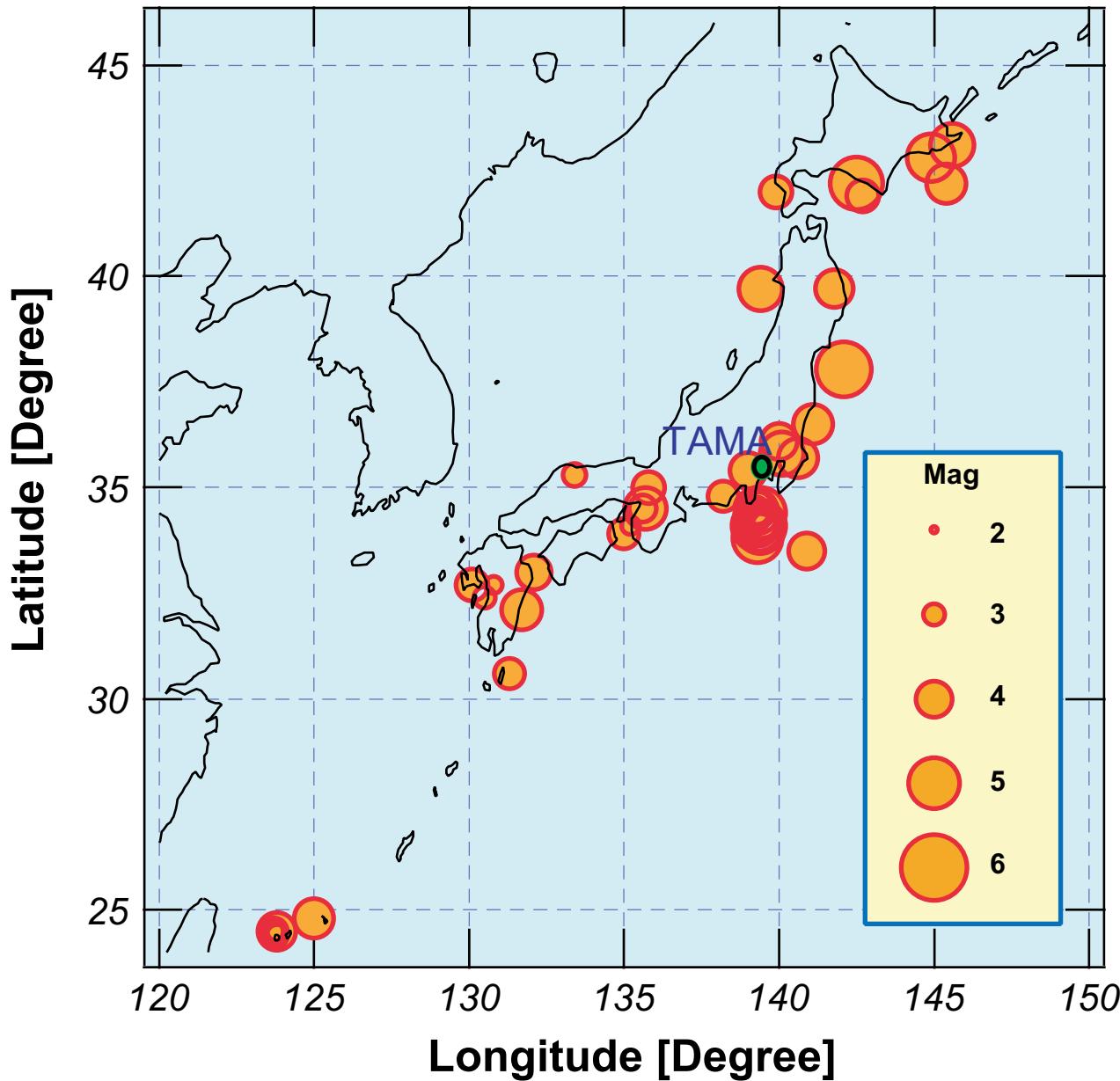
最初の数日の調整段階を経た後は総じて安定

Operation of the interferometer



Earthquakes

Earthquakes during DT4



三宅島地震火山活動の最盛期ではなかったものの、頻繁にM5級の地震に見舞われた。

Fireworks



調布市花火大会
8/30 7:30~21:00

Unlock

地面振動

AM6:00, AM8:30~

コントラスト変動の大幅な増加

地震・火山・その他の大きな外乱

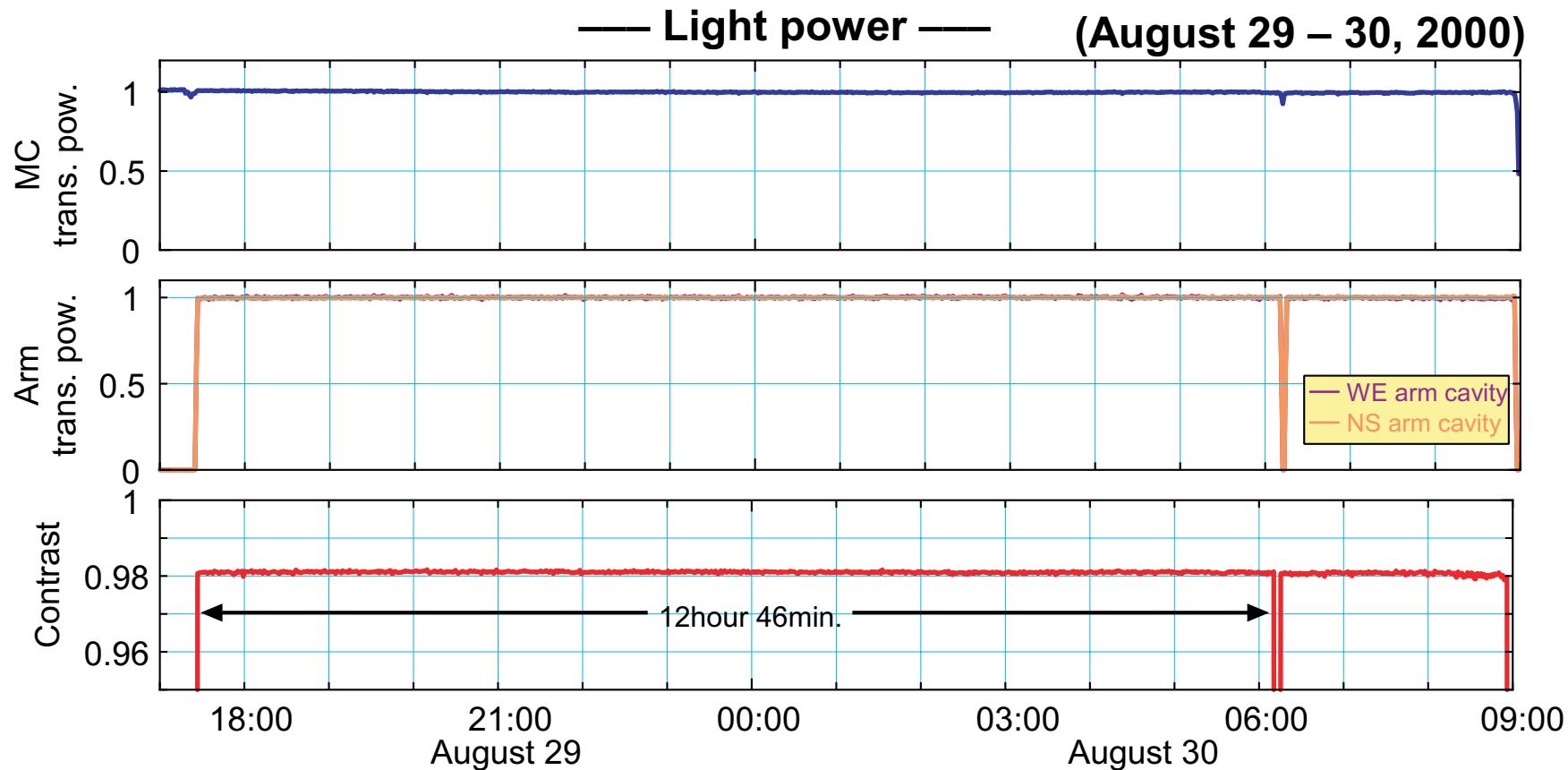
レーザーの不調

原因究明と対策が必要

光路長制御(とくに基線長の同相変動)

Stability

MC, 両腕キャビティー透過光量の安定度 / コントラストの安定度

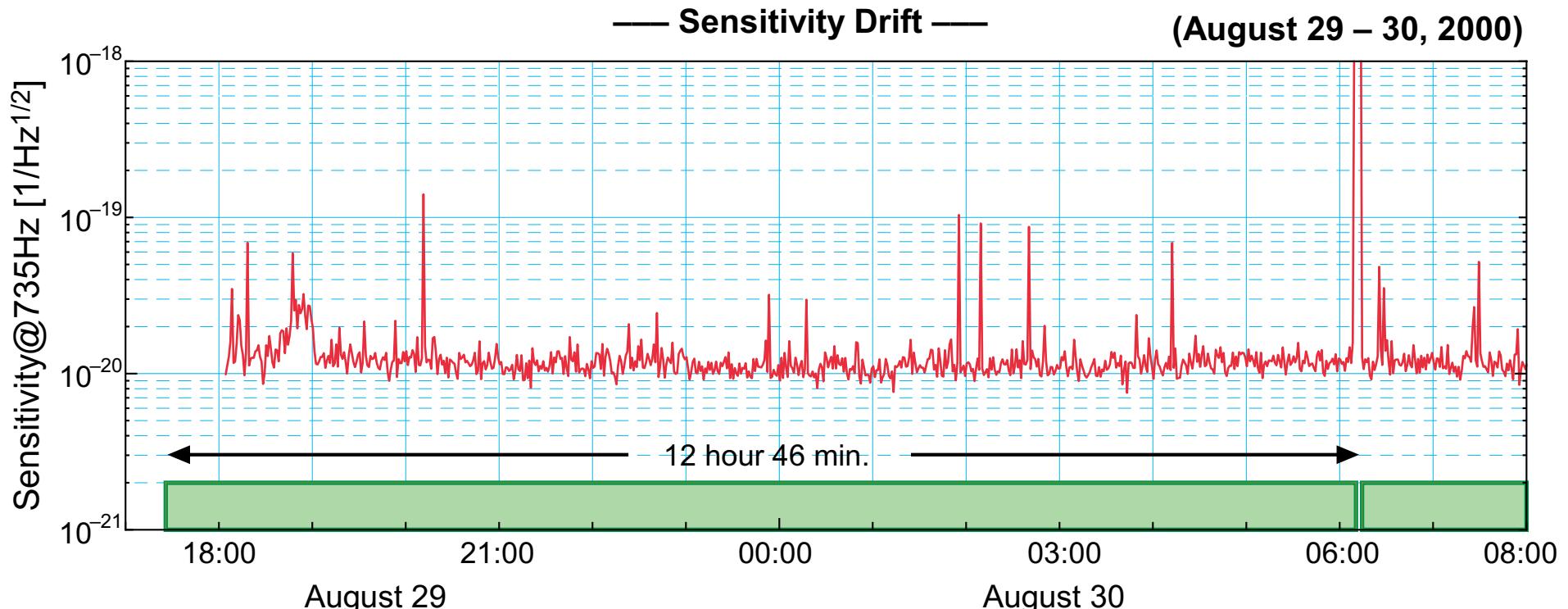


長期変動量

MC透过光量	1.5%
Inline arm	0.1%
Perpendicular arm	0.3%
コントラスト	0.3% (平均値 0.981 --- sideband含む)

(平均値 0.981 --- sideband含む)

Stability (2)



Typical sensitivity

$$h \sim 1 \times 10^{-20} / \sqrt{\text{Hz}}$$

DT2, DT3で見られたバースト状ノイズ

→ レーザー励起電流の調整により激減できることが判明した

すべての非定常雑音が除去されたわけではない

→ 散乱光やコントラスト悪化による影響は見られた

Summary

干渉計型重力波検出器TAMA300 :

世界最高感度

$$1.5 \times 10^{-18} \text{ m}/\sqrt{\text{Hz}} @ 600 \sim 1.4 \text{ kHz} \quad \rightarrow \quad h = 5 \times 10^{-21} / \sqrt{\text{Hz}}$$

Data Taking 4

2週間の運転: 167時間のデータを取得

最長ロック: 12時間47分

通日運転: 24時間中 23時間動作

干渉計感度・各種光量 非常に安定

→ これまでの高感度化・高安定化の研究の成果

今後

感度・安定度向上の方策 / さらなる自動化